

あわくら 歴史街道

貴重な物作り 職人木地師のこと

木地師の起りは貞観年間(859)とも云われています。又、木地屋とも呼び轆轤(ろくろ)を使って、木を材料に色々な日用器物を作って生業としていました。この人達は田畑や山林を持って村に定住せず、原材料となる原木を求めて山から山へと移住していました。木地屋文書の伝える処によれば、元祖は文徳天皇の皇子惟喬親王で近江国愛智郡小椋卿にある二つの村が、心の故郷と云われています。木地師は宗旨手形(身分証明書)を所持して全国の山々を歩くことの出来る通行手形とも云える重要なものでした。正保年間(1644)から弘化3年(1846)迄の氏子狩帳によると、美作地方は木地の王国であったようで、東部は旧東粟倉村後山を始め西は真庭郡川上村、新庄村、南は久米郡埤和まで産地はすべて木地師往来の跡と云ってもよく、近くは勝田郡右手の木地屋で247世帯もあつたようです。木地師の家元とも云われる滋賀県神崎郡永源寺町蛭谷に、木地師の所在地を記入した氏子狩帳があつて正保年間より明治迄32冊が保存してあるそうで、真庭、苦田、勝田、久米、英田の各郡内記事の中から本村に係わる地名を見ると、塩谷、吉野郡引合(引谷のこと)か)谷の郡大茅村、吉野郡大茅村、吉野郡大萱野村、吉野郡大帰り山などいづれも本村大茅のことと推測されます。昔は当て字誤字等の多い時代なので紛らわしい表現もありますが、村内の史跡からみて間違いのない所と思考しています。大茅では大茅新田奥の一の橋より凡そ百米程上がった所、村道左手山裾に木地屋敷跡と云われる場所があつたが、大茅奥地村道拡張改良工事のため大半は道路敷となり、その附近に墓石群もあつたが今はそれも無くなっています。この地帯では通称若杉山林の原木を伐採して加工していたのでしょ。大茅大海里山でも稼業して大海上山古道の道端に、数体の木地師墓と伝えられているのが現存しています。引谷は山谷も南北に深く長い地形なので、木地師の里としても最適だったのではないのでしょうか。塩谷は西から東へ流れる塩谷川の源とも云える御林山深山その他の林山でも木地師の里であつたようで、高松御所本山、金龍寺発行の宗旨印証を現在も大切に保存されているお家があります。

勝田郡梶並の右手地区の木地師集落については前述のとおりですが、この木地師が塩谷深山に原木を求めて入

山したと伝える山道があります。それは深山の西方から横がけに舟ヶ谷と云う山林の高所を通る横道を掘り、幅は約1.5m位で筆者は戦前之を見て不思議に思ったことがありました。その横路の上側に石南花の古木に花の一杯咲いていたのを今でも覚えています。右手地区の木地師達は豊富な原木を塩谷深山に求めて入込み、半加工の上牛馬又は人の背により右手集落へと運んだものと推測しています。(一部塩谷地区古老談参考)

寛延2(1749)年影石神社再建記録の中に寄付者名中大かや木地屋久三郎、木地屋磯右エ門、右手木地屋、大かや木地屋母等の名が載っていて夫々銀3匁～4匁5分となっており、その稼業と存在を証明しています。

人の動き

平成22年7月1日現在

- 人口 1,603人(+2)
- 6月中の移動
- 男 744人(+2) 出生 1人 死亡 1人
- 女 859人(±0) 転入 4人 転出 2人
- 世帯数 552戸(+1)

善意の窓

(村社会福祉協議会から)

平成22年6月20日～平成22年7月19日

お大事にしてください

引谷 乾 幸子 様 本人 退院内祝
中土居 神原 眞太郎 様 本人 退院内祝
谷口 政久 馨 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

塩谷 井上 恵 様 亡母 道子様 香典返し
別府 道上 修 様 亡父 勇様 香典返し

今月の村税

住 民 税 (第2期)

国民健康保険税 (第3期)

納期限：8月31日(火)

◎納期限にご注意いただき、納税をお願いいたします。

口座振替の場合は残高確認をお願いいたします。

お問い合わせ先：西粟倉村役場総務企画課・保健福祉課

たばこは村内で買いましょう